

日本家庭科教育学会 2008(平成 20)年度例会

日本家庭科教育学会
会長 鶴田 敦子

日本家庭科教育学会 2008 年度の例会を下記の要領で開催いたします。
会員の皆さま、どうぞ多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時：2008 年 11 月 29 日(土) 13:00~17:10

場所：聖心女子大学

地下鉄日比谷線 広尾駅下車 徒歩 3 分(別紙地図をご参照ください)

タイムスケジュール

受付	12:30~	3号館 3F
研究発表	13:00~14:00	3号館 3F、4F
講演	14:15~15:25	1号館 2F 204
ラウンドテーブル	15:40~17:10	3号館 3F、4F
書籍頒布	13:00~17:10	3号館 3F

理事会 10:00~12:00(1号館 1F グリーンパーラー)

地区会代表者会議 17:30~19:30(1号館 1F グリーンパーラー)

研究発表(13:00~14:00)

第一会場(3F332室) 座長 吉原崇恵(静岡大学)

1. 小学校低学年からの家庭科学習の論理的
可能性の検討 - 米国 N.J. 州初等家庭科
プログラムにみられるカリキュラム構
成原理 - 信清亜希子(岡山県高梁市立高梁小学校)
佐藤園(岡山大学教育学部)
2. 米国ミシガン州カラマズー学区公立学
校 7・8 年生の性教育プログラムについ
ての報告 泉光世(Western Michigan University Family
and Consumer Science Graduate Program)
3. 小学校教員の家庭科の授業改善に関する
研究 - 授業を進める意思決定プロセス
の視点から - 庄司佳子(千葉市教育委員会学校教育部
指導課)
4. 高等学校家庭科技術検定の実態と望まし
い方向性の追究(第3報) - 指導者の実
態から - 亀井佑子(東京都立小松川高等学校(囁))

第二会場（3F3 3 3室） 中島喜代子（三重大学）

1. 中学校家庭科におけるエイジング学習
- 学習形態別の実践からみた効果の検討
角間陽子（福島大学人間発達文化学類）
2. 中学校家庭科家族・保育学習における子どもの自己認識形成評価への心理測定
尺度適用の試み（第2報）
河原浩子（岡山大学大学院教育学研究科（院生））
小橋和子（岡山大学附属中学校）
原田省吾（岡山大学附属中学校）
佐藤園（岡山大学教育学部）
3. 中学校家庭科被服学習における子どもの被服関心・自尊感情形成評価への心理測定
尺度適用の試み（第2報）
平田美智子（岡山大学大学院教育学研究科（院生））
小橋和子（岡山大学附属中学校）
原田省吾（岡山大学附属中学校）
佐藤園（岡山大学教育学部）
4. 技術・家庭（家庭分野）におけるボランティア活動の実践と意義について
山口明美（鹿児島純心女子大学国際人間学部）

第三会場（4F3 4 2室） 座長 石川尚子（日本女子大学）

1. 高等学校家庭科の履修と大学生・社会人の食意識・食行動との関連
河野公子（聖徳大学人文学部）
2. 農作物に応用されるゲノム研究に関する一般市民の意識 - 2005年と2008年の全国調査を比較して -
石山みづ美（帝京学園短期大学）
3. 食の現代的課題からどう学びをつくるか
- 「中国餃子事件」から学ぶ -
野田知子（東京福祉大学社会福祉学部）
伊深祥子（さいたま市立与野西中学校）
菅野久美子（東京都北区立岩淵中学校）
石川勝江（東京都北区立十条富士見中学校）
4. 小学生の栄養素等摂取の現状を踏まえた新規「食品群」の検証 - 小学校家庭科授業開発に関する基礎的研究（ ） -
西谷圭二（岡山市立西小学校）
信清亜希子（高梁市立高梁小学校）
河田哲典（岡山大学教育学部）
佐藤園（岡山大学教育学部）

第四会場（4F343室） 座長 福井典代（鳴門教育大学）

1. 児童・生徒を対象とした被服教育への提言 - 高校生の身体装飾意識調査をもとに - 松岡依里子（戸板女子短期大学）
2. 大学生の能動及び受動喫煙調査 入江和夫（山口大学教育学部）
山本圭朗（山口市立阿知須小学校）
3. 小・中・高校生を対象にした家庭機能の期待感と家庭科でつきたい力 入江和夫（山口大学教育学部）
岡田安恵（山口県宇部市立楠中学校）
4. 城戸幡太郎編『私たちの生活百科事典』にみる生活把握 青木香保里（天使大学）

講演（14：15～15：25）（1号館2F204室）

講演題目

「教育社会学の視点から家庭科教育への提起」

講師 本田由紀先生（東京大学大学院）

講演の概要

学校の教育内容と、子供や若者の現在・将来の生活との関連性（relevance）を高めることは、不安定化・不透明化した社会を生きざるをえない子供や若者のエンパワメントにとって重要な課題であり、この課題に対して家庭科教育はもっとも密接に関わる教科である。しかしながら実際には、一方には日本社会における現実の家庭のあり方、他方には家庭科教育を特定の方向に誘導しようとする政策のあり方という、二つの問題域の狭間で、家庭科教育は苦境に直面していると言える。こうした状況下で家庭科教育がいかなる活路を見出しているかについて、いくつかの提起を試みたい。

ラウンドテーブル（16：40～17：10）

テーマ 「家庭科の授業分析と実践研究の検討」

[趣旨]

本学会では第48回大会（前橋）以降の大会や例会で、参加者同士が自由に議論できる場としてラウンドテーブルを企画してまいりました。本例会でもこれまでの成果を引き継ぎ、子どもたちにとって魅力ある家庭科の授業を展開し、授業研究の質を高めるために、家庭科の授業分析や実践研究について参加者の皆さんと共に考えていきたいと思っております。

今年の例会では、できるだけ少人数の参加型の学習会にしたいと考え、6つのラウンドテーブルを設定しました。各テーブルでは1名の話者提供者の報告をもとに、参加者の実践や研究、アイデアなどを交流し、議論を広げたり深めたりしていきます。

ラウンドテーブル1 (3F332室)

テーマ：地域における「生活課題」「生活文化」の授業実践から見てきたこと
九州・沖縄の家庭科実践報告の収集・分析から
話題提供者：桑畑美沙子(熊本大学)
コーディネーター：福原美江(宮崎大学)

ラウンドテーブル2 (3F333室)

テーマ：高等学校家庭科におけるキャリア教育に関する授業分析
- 生徒の変容を中心とした質的分析をめざして -
話題提供者：志村結美(山梨大学)
コーディネーター：片田江綾子(香川大学)

ラウンドテーブル3 (3F334室)

テーマ：授業をおこなう者の授業研究と現場教員を支援する授業研究
話題提供者：野田知子(東京福祉大学)
コーディネーター：柳昌子(九州女子短期大学)

ラウンドテーブル4 (4F342室)

テーマ：小学校生活時間の授業分析
話題提供者：小野恭子(東京学芸大附属大泉小学校)
コーディネーター：表真美(京都女子大学)

ラウンドテーブル5 (4F343室)

テーマ：文化的実践としての学びをめざして
話題提供者：忽那啓子(大阪府能勢町立東中学校)
コーディネーター：渡瀬典子(岩手大学)

ラウンドテーブル6 (4F344室)

テーマ：社会保険ゲームを用いた授業
話題提供者：坪内恭子(東京都立青井高等学校)
コーディネーター：上野顕子(金城学院大学)

参加費：正会員 1,500 円(当日 1,800 円) 学生会員 1,000 円(当日 1,500 円)
非会員 2,000 円(当日も同額) 学生非会員 1,500 円(当日も同額)

事前参加申込期限：2008 年 11 月 14 日(金)

* 同封の振込用紙または、以下の郵便振替口座番号、加入者名でお申込ください。

00180-2-144157 日本家庭科教育学会大会例会セミナー

欠席者の方には、後日資料を送付し、参加費の返金はいたしませんのでご了承ください。

上記に関する問合せ先：日本家庭科教育学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 日本教育研究連合会内
TEL・FAX 03-3942-7885